

【市政懇談会 質疑応答】 武佐会館（平成 25 年 9 月 4 日(水) 18:30）

【参加者 A】

以前、住宅課に武佐の公営住宅の耐震改修計画について質問したところ、今まで大丈夫だったので、これからも問題ないという回答でしたが、その件について、伺います。

【都市整備部長】

全ての 5 階建て以上の公営住宅については、武佐 R 1 4 以外のすべての耐震診断を行いまして、「安全」の結果が出ております。今までも大丈夫だからというわけではなく、しっかりとした耐震診断のもとに大丈夫だということでございます。ただし、一部の高層住宅については、調査結果から耐震不足がありましたことから、現在、新川町、駒場町の公営住宅の耐震改修を行っているところであり、平成 27 年度までには全ての公営住宅の耐震改修を行いたいと考えています。

【参加者 B】

R 1 4 の自治会長と話した際に、耐震改修の関係で、市では新たな入居者を予定しておらず、そのため、自治会費収入が減って、運営に大変苦勞していると伺いました。今後、いつ改修され、入居が再開されるのかお聞かせください。

【都市整備部長】

武佐公営住宅の具体的な耐震改修時期は決まっていません。急がなければならない公営住宅として白樺台に着手し、川北、鳥取南といった年数の古い建物から取り掛かっています。

R 1 4 では高層階に多くの方が入居されていますので、自治会長さんが苦勞されている自治会費収入の減少の部分も十分解ります。具体的な案はまだ固まっていますが、検討していかなければならないと考えております。

【参加者 C】

住宅課からは、「耐震改修の関係で新規入居を受け付けない」とはっきり言われました。最大 72 戸が入居できますが、今は 60 戸を切っています。そうになると、一戸当たりの電気料金が上がってきます。ある程度は、自治会費などで吸収していますが、それでも負担が増えています。

【都市整備部長】

増加する分は、一部ではありますが政策的に市の予算から支出しています。

【参加者 C】

数件分の電気使用料は、市にみてもらっていますが、それでもどんどん減っていきますので、負担が増えていく状況です。

【都市整備部長】

空いている戸数に対して、何戸分をみているか等の詳細な情報はおさえていませんが、今後の耐震改修に向けて、具体的に検討したいと考えております。

【参加者A】

新規入居を止めている理由は、耐震改修の問題だけではありません。大丈夫だという建物も何年も前から入居が無い状況です。R 8やR 9等でも空き部屋がたくさんあります。市役所に修繕する費用がないから、入居を受け入れられないと聞いていますが、むしろ、入居してもらって、家賃収入を得た方が良いのではないかと思います。

【参加者D】

昭和 47 年頃に建てられたものですが、5階建ての建物自体は何十年もつものでしょうか。50年とも聞いていますが、住宅公社へ確認する度に回答する耐用年数が伸びています。

【都市整備部長】

通常、法定耐用年数などが定められており、市営住宅の場合ですと50年といわれていますが、最大で70年位とは言われています。ただ、そこまですべて持たせるかは別です。50年で更新していくのが良いのか、ある程度メンテナンスすると、さらに持つと言われています。

【参加者D】

修繕がまったく行われていません。ベランダの壁は次々と剥がれ落ちてきているし、鍾乳洞にある氷柱のようなものが垂れ下がっている状況で、洗濯物も干せない状況になっています。実際に、見に来た後も一切修繕がなされません。

住宅公社の職員によって対応が違います。話のときどきによって、市役所の職員ですと言ったり、住宅公社ですと言ったり、発言が変わります。

【参加者A】

住宅公社が管理するようになってから、対応が悪くなりました。住宅課が管理していた頃は、すごく良い対応でした。札幌市では、住宅公社の管理が悪いということで、住宅公社を廃止しました。業者に任せているので、実態を把握できていない部分があると思います。

【都市整備部長】

市では、市営住宅の管理を住宅公社に委託しています。皆さまからのご意見ご要望については、できること、できないことがあると思いますが、常日頃から住宅公社には住民の方々の声に耳を傾けるよう伝えております。今のご意見も踏まえて、住宅公社全般について、改めて、しっかりと対応するよう伝えていきます。

【参加者E】

R 1 4については、耐震改修を平成 27 年度までに完了するとおっしゃっていましたが、あと2年待つと対応していただけるという認識で良いのでしょうか。

【都市整備部長】

平成 27 年度までに終了する計画としていますが、複数箇所の公営住宅の補強を計画しておりますので、正確な時期については、改めて、確認した上でご案内したいと思います。

また、先ほどの入居者を埋めていくという部分についても、電気料金の負担につい

ては、エレベーターがありますので、共益費の部分になると思いますが、住宅課に確認しまして、改めてお伝えします。

【参加者 E】

その間に大きな地震がきたらどうなるのでしょうか。

【市長】

国では平成 27 年度までに、さまざまな公共的施設の耐震補強を行う方針を立てており、学校や市役所なども、多くの人が利用する公共的な施設ということで耐震補強を進めています。公営住宅についても、同じように耐震補強を進めていこうと思っ
ていますが、数多くある公共施設を一斉に平成 27 年度までに補強するのは、難しいのではないかということから、この期限が少し伸びるかもしれないというのが現在の状況です。

平成 27 年度までに対応しなければ、さまざまな制度が活用できないという中で進
めています。全国的には、なかなか進んでいない状況にあります。期限が伸びること
になれば、公営住宅の改修時期も伸びる可能性があるところです。

市では多くの人々の利用がある公共施設を優先的に進めており、また、多くの子供た
ちが通う学校も、同じく耐震対応を進めています。公営住宅についても、全体のス
ケジュールの中で、どのように進めて行くか、最終的な調整にこれから入るところで
すので、改めて、完了する時期はご説明させていただくというのが、妥当だと考えて
います。全体の流れだけのご理解いただきたいと思います。

【参加者 F】

お伺いしたいことがいくつかあります。まず、この地区にある星園高校の今後の利
用と管理問題についてお伺いしたいと思います。

次に、市の一斉清掃についてです。春と秋は実施日が決まっていますが、今年は町
内会と一緒に清掃する日が決まっていながら、町内会より先に清掃してしまって、そ
の数日後に清掃車が回収しにくるという状況でした。歩道や車道に溜まった冬に巻い
た砂を除去してもらえれば助かりますが、町内のみなさんが協力して取り除いた後に、
清掃車が来ています。確認したところ、業者の都合で遅れたり早くなったりしている
ようですが、業者に発注する時には、市が一斉清掃を指定した日より前に実施する
よう一言言ってほしいと思います。

【総合政策部長】

星園高校の跡利用ですが、基本的には、民間で活用する計画があれば、売却する方
針です。行政では、行政目的で使用する予定がありませんので、今のところはあのみ
ま置かざるを得ない状況です。

【参加者 F】

補助金を含めて、売却を考えているということですか。

【総合政策部長】

補助金については、手元に詳細な資料がないので、ご回答しかねますが、建物を壊
して使うのであれば、本来は、補助金をすべてお返しする必要があります。教育目的
で使用するのであればその心配はありませんが、今のところ、新しく会館等の施設を

建てる等の計画もありませんので、当面、民間の需要があるまでは置いておくことにしております。

【参加者G】

大きな建物ですし、立派な建物です。耐震強度はどうなっているのでしょうか。

【総合政策部長】

昭和 56 年以前に建てられた建物は、新耐震基準に倣っておりません。星園高校はそれ以前の建物だと把握しておりますので、新耐震基準に合致していないということになります。

【参加者H】

地域に開放したり、地域活性化のために有効活用できるかどうかの検討も難しいということですね。

【都市整備部長】

道路の清掃のご質問についてお答えします。春先には冬に撒いた砂がたまったりするため清掃しておりますが、ご意見のありました件につきましては、一斉清掃の時期とのタイミングの問題と思いますので、今後、十分に注意しながら進めてまいりたいと思います。

【参加者G】

昨年位から、行政サービスにそういった欠陥が出てきています。今までは、なんともありませんでしたので今回ご質問させていただきました。

【市長】

それぞれの部署が縦割りの的に実施すると、そういったことは起こる話です。お互いのところで、どういったことをやっているのかということ、できるだけ関心を持ちながら、連携をするよう話をしているところです。

【参加者H】

三点伺います。現在、市民球場が改修されていると思いますが、完成後、プロ野球観戦はできるのでしょうか。市長もご存知かと思いますが、子供や孫に一度で良いからプロ野球を見せてあげたいという方が大勢いて、北海道日本ハムファイターズを応援しに多くの方が札幌ドームに行っているようです。帯広で行われる試合まで行っていることを考えると、域内循環の考え方でいけば非常に残念なことです。

次に、新しい津波ハザードマップです。私たちの町内会は、武佐小学校の近所です。この地区は 2 m から 3 m の津波浸水がある場所になっており、その時は、武佐小学校の 3 階か 4 階に避難する内容になっています。津波はいつ来るか分かりませんので、そうなった時に、現在、武佐小学校は、グラウンドを含めて高い柵で覆われていて、日常は武佐小学校に入ることはできません。小学校の正面まで回れば入ることができですが、人の命や緊急性を考えると、最短距離では逃げることはできません。その辺の対応について、最短で校舎へ逃げ込むための緩和策などについて、学校側と協議などはしていただけるのかということ。私どもも、先日、生涯学習センターで勉強会を受けさせていただきました。ハザードマップを、実態を捉えていると思、大変よくできているし、それなりの理解もしています。そして、こういう問題について、

地域として、3つの町内会で、近日中には、私どもの方から、お願いしてもう一度勉強会をして、具体的な避難経路の確保なども考える必要があるので、お聞きしたいです。

R14の話がでましたが、R14も近くにあります。学校までいかななくても、R14の高層階へ近くの方々が避難できれば、武佐小学校の裏側からの緩和への代替え案などの対応はできると思います。耐震補強をするのであれば、それなりの施設として考えた工事をしていただけないかなと思います。お金のかかることですが、そのような考えがあります。

もう一つ、連合町内会ではいろいろなことで取り組みをしています。加入率を上げる良い制度もありますので、お金のかかることですが、制度を継続していただきたい。一番の問題は、自治会の無い地域があることです。あっても町内会に加入していない自治会が多いことです。この加入率促進のために、我々も努力しますし、市の方で、もう少し自治会のほうに、この武佐会館を利用して勉強会を開くなり組織づくりと一緒にやっていけるような仕組みづくりをお考えいただければと思います。

関連してもう一つあります。5階建ての公営住宅の話がありましたが、平屋の公営住宅もあります。周囲の方に聞きますと、入口や窓にベニヤ板を張った空いたままの建物が目立ちます。地域として防犯の面などから不安に感じます。抜本的な解決手法は難しいとしても、雑草を含めて、いろいろな意味で不衛生ですし、考える必要があります。

【市長】

市民球場改修の件ですが、関係団体等に相談するとともに、日本ハムファイターズとも話をしながら進めているところです。釧路に日本ハムファイターズが来られなくなった理由として、球場の施設そのものが原因と多くの方々が受け止めていらっしゃると思います。その要素も全くないわけではありませんが、基本的には、収容人員の問題があります。収容人員が少ないという中で、経営判断もあり帯広で試合を行っています。釧路市民球場の観客収容人員は12,000人で、帯広は18,000人です。そして、札幌ドームは、約42,000人という状況の中で、道東方面の野球場では、12,000人の釧路市民球場と18,000人の帯広市民球場で2日開催する収容人員よりも、18,000人の帯広市で2日開催する方が、収容人数が多くなるということで、選手の移動なども含めて、帯広市が2日間の開催になったという状況でございます。

しかしながら、入場者数は低調に推移しておりますので、もう一度、北海道全体の中で、いろいろとファンづくりを進めていこうと、今年から10年間の全道179市町村応援大使という取り組みが進められております。

第1弾で釧路市は、飯山選手と杉谷選手に応援大使になっていただいたところですが、釧路市民球場も電光掲示板化などを含めて対応する予定になっておりますので、日本ハムファイターズも対応を考えていただけるものと考えております。市としては、少なくとも改修するからには利用して欲しいということもあります。

亜細亜大学の硬式野球部に夏季合宿で利用していただいて、釧路で練習していた東浜選手がソフトバンクにドラフト1位で行くということで、ほとんどプロと変わりな

いチームの利用があるなど、施設の使いやすさや改修などの方向性を始め、しっかりとした環境を整えるために進めております。その中で、日本ハムファイターズのご意見も伺いながら進めていきますので、さまざまな団体から多くの利用機会が得られることに繋がっていくと考えております。

続いて、武佐小学校の件ですが、これはまさしく地域対応の中で、どうするというのを相談していくということでもあります。

まず、大きい意味でハザードマップの説明をさせていただきましたが、地域によっていろいろな状況があると思います。例えば、災害時に援護が必要な方への対応等、いろいろなことが現実にはあります。こうしたことをもう少し検討範囲を小さくして、そこで相談する形をとって、不安を払拭していきたいと思っています。

津波の到達時間が約30分なので、約20分でどう対処できるかなども、現実にするのを踏まえながら、対応なども検討していきたいと思っています。

町内会については、「町内会に入るのが当然」という街の文化を醸成していきたいと考えています。町内会が地域にとって絶対に必要なものであると考えていますので、しっかり進めていきたいと思っています。

【都市整備部長】

先ほどの件も含め修繕費用がかかるという中で、計画を立てる必要があります。また、平屋建てなどの低層の公営住宅を望む方もいらっしゃいますので、それらをすべて無くすというわけにもいかないところでございまして、適正な管理を進めていきたいと思っています。また、R14については、具体的な計画もお示ししていきたいと思っています。

【市民環境部長】

自治会に関するご質問につきましては、そうした組織があっても町内会には入っていただけないところがありますが、連合町内会では、現在、加入率推進委員会を設置して取り組んでいただいておりますので、一緒に相談しながら加入の促進に取り組んでいきたいと思っています。

【参加者A】

先程、市長は市役所が縦割りだと言われましたが、市の市民生活課では、町内会の加入を一生懸命推進していますが、肝心要の住宅公社は一切加入促進のアプローチなどがありません。そうしたことを直してほしいと思います。

【市長】

自分の所属の仕事だけ処理すれば良いという、他の部署が何をやっているのか興味を持たない、関心を示さない、こういう形を文化として作ってしまったのは、問題だと思っています。

山形県からきている公立大学に入った学生と話をする機会があった際に、父と母から、釧路に行ったら町内会にちゃんと入るように言われたと聞き、大変驚きました。山形の山奥の町の出身かと聞いたところ、山形市内出身といわれた時に、愕然としました。つまり、あの地域には、そういった風土があり、釧路にはない、これが問題だと思っています。

町内会に入るのが当たり前だという意識を誰も持っていないことが一番のネックだと思います。加入することのメリットやデメリットだけではなく、この地域に暮らすため、町内の中で、さまざまなことを一緒にやっていく共同体として、連携しながら進めていくために必要であるということだと思います。ただ、街路灯のお金を払えば良いというのではなく、文化を作らなければだめだと思っています。

そういった意味では、市役所の中でも、縦割りというより意識を持つということ、つまり、公営住宅の入居の時に、自治会へ入るよう紹介しなければならないと思います。一方で一生懸命やっていて、もう一方では知らないということは、良くないことですので、しっかり、進めていきたいと思っています。

【参加者 I】

星園高校があった頃には、テニスコートの廻りのフェンスに植えられていた木が、丸くカットされてフェンスから出ていませんでしたが、今、フェンスをはみ出して、歩道の半分くらいまで伸びています。春先、溶けた雪道が滑るようになったら、歩道の状態が良くないので、状態の良い部分を歩きたいのですが、木がせり出しているので、歩くことができません。あのままにしていると、歩行に支障をきたしたままになるので、対応をお願いします。

【参加者 D】

街路樹の枝を少し切り払ってもらうことはできないのでしょうか。

【都市整備部長】

街路樹の剪定は委託業務により対応しておりますが、さまざまなご要望をいただきながら、通行の安全性には対応しております。しかしながら、一斉にすべてに対応するのは、なかなか難しいところがございますので、通行上の安全性確保の観点から、緊急を要する部分から対応させていただいております。ご理解いただきたいと思えます。

【参加者 I】

春先はシカの糞が原因でとても臭くなります。星園公園のテニスコートのフェンスの内側にびっしりシカの糞がありました。地域の草刈があった際に取り除かれたので一時期より匂いは落ち着きましたが、木が伸びたままとなっているので、シカが侵入しやすくなっているのかと思います。

【市長】

シカは、かなりの数が市街地にも来ています。エゾシカの適正規模が 15 万頭と言われている中、今は 68 万頭です。北海道で昭和 58 年に保護政策をとったことで、数が増え、結果として、街の中やコンブの干場まで、シカが見られるようになった状況となりました。そうした状況の中、北海道や市町村が連携しながら、適正規模に近づけるために、シカの捕獲に取り組んでいる状況にあります。まだまだ適正な頭数にはほど遠くかなり多い状況になっています。

シカの全体数が多くなっているということをご理解いただいた上で、ご指摘いただいた点については、全体の優先順位を見た中で、しっかりと対応していくということを考えています。

【参加者 I】

2号公園が避難所になっていますが、あまりにも暗いです。週に4,5回通りますが、一度大変驚いたことがありました。公園のベンチに誰か座っているのが見えまして、階段を登る際に突然出てきたので、すごく驚き怖い思いをしました。

【都市整備部長】

場所を確認して改めて連絡します。

【参加者 J】

コンパクトシティといったように政策プランと将来人口の推移を関連づけているように見受けられます。資料の将来人口推計では、2032年で155,966人という数字になっています。この人口数はどういう考え方に基づいているのか教えてください。

また、阿寒のコミュニティスクールはどういった考え方で広がっていくのかということと、成年後見センター事業について、現在、釧路市社会福祉協議会が委託事業者として行っていますが、その他にNPO法人も2団体が担っていますので、これらの支援方法はこういった手法なのかを教えてください。

最後に、介護保険制度の要介護1と2が、今度、市町村の裁量になる可能性があるとの報道がありましたが、その点の市の考え方についてお伺いします。

【市長】

将来人口推計は、現在の人口に対して、出生率を乗じたりすることで算出していくもので傾向を見る形になっています。2001年の出生率が1.29で、現在は1.4となっています。この数字が変わるだけで人口が変わってきますので、目安として、この数字があるということです。釧路市の総合計画では、計画最終年度の平成29年の人口規模を、定住人口16万人と併せて交流人口1万人の合計17万人としています。ここで重要なのは、従来20万人から減少傾向にあるという部分だと考えています。

次に阿寒のコミュニティスクールについては、地域の中で、アイヌ文化を含めて、子どもたちを育ていこうと、非常に盛り上がってきた状況の中で、今年からスタートしたという背景でございます。

【参加者】

成年後見制度については、成年後見センターがバックアップしているという考え方になります。高齢者を含めて、将来的に人口の1%に後見人が必要になってくるのではないかとされていますが、将来を見据えて専門職だけでは足りないもので、市民後見人の養成講座が実施されています。市が旗振りに役になって整備した仕組みですが、専門職の方もバックアップする形で一体となって運営されています。

【市長】

養成と運営は市と連携しながら進めており、この取り組みは非常に進んでいると国からも評価いただいております。

要介護1・2の取り扱いについては、これはまだ、国でもさまざまな議論がされています。当然、自治体から猛反発等々が出てくると思っており、現在のような仕組みの中で、そのまま市町村が引き継いでいくというのは、成り立つものではないと思います。

この件については、直接地域の方々の安全安心に繋がってくるものでありますので、しっかりと政府の改正案等には、釧路市も全道市長会、全国市長会等や関係団体等と連携を図りながら、声をあげるようにしてより良い形をとるようにしていきたいと思っております。

【参加者K】

市の施設ではありませんが、釧路の昭和から阿寒の舌辛までサイクリングロードがあります。年に1回くらいずつ舗装補修されていますが、2mか3m間隔くらいで切れていて、走っているとガタガタと揺れます。管轄は北海道であるとのことですが、いくらかでも走行しやすいように整備していただければと思います。

【市長】

しっかりと北海道に状況を伝えます。

【参加者L】

私たちの町内会も6割近くが高齢者という状況ですが、町内会で一番力をいれているのは、町内の環境美化です。町内の高齢化が進んでも雑草が生えたままの環境にはしたくないと一生懸命環境整備をしています。

最近歩道に穴が開いてきており、その原因の一つが凍結だと思っています。人が通らないので、ブヨブヨしてきて、そしてまたそこに草が生えてきて、歩きづらくなるので、歩行者は車道を歩きます。そうすると悪循環でどんどん草が生えてきます。町内の美観を損なうということで、歩道を簡易舗装で良いから、修繕して欲しいと道路維持事業所へ相談したところ、穴が開いて、躓いて、転倒する危険がある状態であれば別だが、その程度では、他に優先しなければならない箇所がたくさんあるので、対応できないといわれました。

そういったことから、老人力をもっと活用してほしいと思います。例えば、地域住民が自ら地域の道路を簡易修繕するためのセメントを予算化しておいて、要望があれば利用してもらいたいなどと用意されている仕組みがあれば、もっと私たちも喜んで直したいというところがたくさんあります。そういう面で、地域の環境美化を維持するための経費を予算化して、逆に我々を活用してほしいと思っております。

【市長】

市民の方々のご協力をいただかないと、まちは成り立たないわけでありまして、どうやって連携していけるかということを考えながら進めていきたいと思っております。

私としては、予算が無いからできないという言い方はやめようと伝えておりますが、現実的に道路維持の場合は、予算の枠があるので、予算を使ってしまえばできないとなってしまいます。

釧路市の市道は900kmくらいありますが、そのうち約300km以上が簡易舗装で、これではどうしても一冬越すと修繕が必要となってしまいます。そこで、少しでも長く持つようにしようということで、普通は基礎の深さを80cmのところを50cmくらいの準恒久舗装へ整備していこうと予算をシフトして進めているところです。簡易舗装で

すと、毎年お金がかかっていきますから、置き換えていくことが重要だと思って進めています。

この路線決定は、町内会から決めていただくという仕組みにしております。ご意見をいただいたことは大変重要なことだと思いますので、例えば、連合町内会から、一括で伺うなど検討していきたいと思います。

【参加者M】

まちづくりについては理解しました。現在、原発問題から海や空気などの汚染が問題になっています。しかし、釧路市の議会で、原発の問題について議論されているのかということを知りたいです。なぜならば、我々市民は、北電の電気を使用しています。値上げは聞いていますが、報道でしか聞いていないと思います。市議会でそういうことが触れられているのが不安なのでお聞きしたいです。

【市長】

原発の問題は、その都度、議会の中でも出ています。被災地の瓦礫の受入について、受け入れるべきとの意見や、釧路は生産地だから受け入れるべきではないとの意見があり、最終的には受け入れないという結論になりましたが、このような形で議論がなされました。給食の放射能測定器を導入すること等、放射能をどうするのかという議論が中心で、電気料金との関係の議論は出ていない状況です。

【参加者N】

MOOの前に旅客船が来るようになりましたが、数時間という短時間で出港していきます。乗客の方がアイヌの文化や阿寒のお土産を買いたいという人がいるが、こうした物は中心部の商店では売っていないという話を聞きました。そうした点について、対応していけば、もう少し乗客も市内を楽しんだり、お金も使ってもらえるのではないのかと思います。

【市長】

クルーズ船は日中停泊して夜に移動するという、乗客が退屈しないような運行形態をとっています。外国船の場合、釧路入港後の次の目的地はアラスカなどといったケースもありまして、釧路で6日分の物資を購入しておこうと、非常に多くの物が売れました。

阿寒のお土産については、釧路滞在中にツアーがありまして、朝8時に船が着いた後に、バス等で阿寒湖に向かい、マリモを見たり、昼食は阿寒湖畔でとるといった内容となっています。クルーズ船が入港した時には、阿寒湖畔の昼食会場は、ほとんど満席の状況であり、昼食時間をずらしてくれないかということをおっしゃられたほどです。

このように阿寒のツアーといったものができていますので、クルーズ船で来られた方々が、今度は、飛行機などで来ていただくといったことに繋がっていただければと考えております。

【市長】

皆さま遅い時間までありがとうございました。このような中で、さまざまご意見を

いただきまして本当に心から感謝申し上げます。しっかりと進めていきたいと思っております。また、地域の中で、町内会と公営住宅との連携が難しいと思っておりましたが、お忙しい中、しっかりと連携いただきながら、進めていただくことは、自治会と町内会の皆様のご尽力の賜物だと思います。心から感謝を申し上げます。

このような事例を他の地区の中でも話をしながら、広く連携が図られるよう行政も関わっていきながら進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。今日は、本当に遅くまでありがとうございました。